



# トラブルシューティング

---

この章は、次の項で構成されています。

- [最後の起動プロセスの記録 \(1 ページ\)](#)
- [最後のクラッシュの記録 \(2 ページ\)](#)
- [DVR Player のダウンロード \(3 ページ\)](#)

## 最後の起動プロセスの記録

### 手順

---

- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Compute] メニューをクリックします。
- ステップ 2** 作業ウィンドウの [TroubleShooting] タブをクリックします。
- ステップ 3** [Troubleshooting] タブの [Bootstrap Process Recording] 領域で、[Enable Recording] チェックボックスをオンにします。
- デフォルトで、このオプションは有効になっています。
- 注意** このタスクはトラブルシューティング目的のもので、常に有効にしていると Cisco IMC パフォーマンスに影響する場合があります。
- ステップ 4** (任意) BIOS POST するまで起動プロセスを記録する場合は、[Stop On BIOS POST] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [Save Changes] をクリックします。
- ステップ 6** [Work] ペイン上部のツールバーで、[Power On Server] をクリックします。
- ステップ 7** [Bootstrap Process Recording] ペインの [Actions] 領域で、[Play Recording] をクリックします。
- サポートされている Java バージョンに関する手順を示した確認ダイアログ ボックスが表示されます。
- ステップ 8** 手順を確認し、[OK] をクリックします。

[DVR Player Controls] ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスは、最後の起動プロセスの記録を再生します。[Stop On BIOS POST] オプションをイネーブルにしている場合は、システムは BIOS POST まで記録プロセスを再生します。

この記録を確認して、システムがリブートした要因を分析できます。

**ステップ 9** [Bootstrap Process Recording] 領域の [Actions] 領域で、[Download Recording] をクリックします。

ダウンロードするには、手順に従ってください。

(注) ファイルがローカルドライブに .dvc 形式で保存されます。KVM プレーヤーまたはオフラインプレーヤーを使用してこの記録を表示できます。[Download Recording] オプションを選択するたびに、最後の起動プロセスが記録され、ファイル名が自動生成され、事前に指定されたパスに保存されます。

**ステップ 10** ダウンロードが完了すると、記録のビデオを再生するファイルを選択できるので、選択して [Open] をクリックします。

[DVR Player Controls] ウィンドウが開き、選択したファイルのビデオが再生されます。

## 最後のクラッシュの記録

### 手順

**ステップ 1** [Navigation] ペインの [Compute] メニューをクリックします。

**ステップ 2** 作業ウィンドウの [TroubleShooting] タブをクリックします。

**ステップ 3** [Troubleshooting] タブの [Crash Recording] 領域で、[Enable Recording] チェックボックスをオンにします。

**注意** このタスクはトラブルシューティング目的のもので、常に有効にしていると Cisco IMC パフォーマンスに影響する場合があります。

**ステップ 4** [Save Changes] をクリックします。

[Actions] 領域の [Capture Recording] ボタンがイネーブルになります。

**ステップ 5** (任意) [Actions] 領域で、[Capture Recording] をクリックし、自動的にクラッシュしたシステムの記録をキャプチャします。

(注) このオプションを選択すると、既存のクラッシュ レコード ファイルが上書きされます。[OK] をクリックして作業を続行します。

**ステップ 6** サーバ上で実行された操作の記録を表示するには、[アクション (Actions)] 領域の [メッセージを再生する (Play Recording)] をクリックします。

サポートされている Java バージョンに関する手順を示した確認ダイアログ ボックスが表示されます。

**ステップ 7** 手順を確認し、[OK] をクリックします。

[DVR Player Controls] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスは、最後の数分にサーバ上で実行された操作の記録を再生します。この記録を確認して、システムがクラッシュした要因を分析できます。

**ステップ 8** [Crash Recording] 領域の [Actions] 領域で、[Download Recording] をクリックします。

ダウンロードするには、手順に従ってください。

(注) ファイルがローカルドライブに .dvc 形式で保存されます。KVM プレーヤーまたはオフラインプレーヤーを使用してこの記録を表示できます。[Download Recording] オプションを選択するたびに、最後のクラッシュプロセスが記録され、ファイル名が自動生成され、事前に指定されたパスに保存されます。

**ステップ 9** ダウンロードが完了すると、記録のビデオを再生するファイルを選択できるので、選択して [Open] をクリックします。

[DVR Player Controls] ウィンドウが開き、選択したファイルのビデオが再生されます。

## DVR Player のダウンロード

### 手順

**ステップ 1** [Navigation] ペインの [Server] タブをクリックします。

**ステップ 2** [サーバ (Server) ] タブの [トラブルシューティング (Troubleshooting) ] をクリックします。

**ステップ 3** [Troubleshooting] タブの [Player] 領域で、[Download Player] をクリックします。

**ステップ 4** ダウンロードするには、手順に従ってください。これらのファイルは、ローカルドライブに .tgz ファイル形式で zip 化されたファイルとして保存されます。

オフラインプレーヤーは、Windows、Linux、および MAC で保存されます。

**ステップ 5** zip ファイルを解凍します。zip ファイルは通常、ブートストラップファイル下に保存され、名前は形式

offline.tgz に従います。

**ステップ 6** ビデオ録画を確認したいスクリプト ファイルを開きます。

(注) Windows で録画を再生する場合は、システムで起動している Java バージョンとスクリプト ファイル内のバージョンが同じであることを確認します。Windows のスクリプト ファイルが録画を再生しない場合は、次の手順に従います。

a) Windows のスクリプト ファイルをデスクトップに抽出します。

- b) メモ帳を使用してファイルを開きます。
- c) jre を検索し、システムで起動しているバージョンと一致するよう Java バージョンを置き換えます。デフォルトでは、Java のバージョンは jre7 に設定されています。
- d) ファイルを保存します。

Java のバージョンを更新したら、抽出したファイルをデスクトップから削除できます。

(注) Java のバージョンの検証は Windows OS にのみ必要です。Linux および MAC の場合は、Java のバージョンが自動的に選択されます。

**ステップ 7** スクリプトファイルがダウンロードされるフォルダに移動し、ビデオ録画を再生するスクリプトファイルを開きます。  
DVR プレーヤーが開始され、サーバ上で実行された操作のビデオが再生されます。

---